

岡山のとしょかん

岡山県図書館協会報
(第 131 号)

倉敷市立真備図書館の再開について

平成 30 年 7 月の西日本豪雨で水没した真備図書館は、令和元年 7 月 23 日(火)に真備公民館内の 1 室を間借りし仮設真備図書館として貸出しサービスを始めました。約 30 平方メートルの部屋に、貸出中で水没を免れた約 2,000 冊の蔵書を並べた図書館でした。

仮設真備図書館は令和 3 年 1 月 24 日(日)に閉館しました。416 日開館し、20,122 人の来館があり、14,752 人が、65,805 点の図書・雑誌・視聴覚資料を借りていただきました。

また、「真備図書館を応援する会」の皆さんが、企画してくださったイベント「まるごと一日よくばり図書館」の参加者は、令和 2 年 1 月の「ヨーイドン」には 120 人、8 月の「出張！恐竜学博物館」は、親子で 62 人の参加者がありました。恐竜大好き少年がうれしい顔で大きな恐竜のタペストリーの前で写真を撮っていました。11 月の「木の実の工作とお話し会」には親子で 50 人の参加がありました。この時には、真備で拾い集めた木の实や枝を使い、復興を願う「MABI BIRD」(まびのとり)の立体絵画制作に約 100 人が参加されました。完成作品は現在、再開館した真備図書館の玄関ホールに飾っています。



〔「MABI BIRD まびのとり」完成作品〕

再開館記念文集『わたしは真備のここが好き』には、65 人の方の 94 作品が集まりました。真

備に住んでいる人や、真備を離れた人の心の絆になればいいと思っています。



〔再開館した真備図書館〕

令和 3 年 1 月 30 日(土)に再開館した真備図書館には、待っていてくださった多くの方が本を借りに来ていただきました。書架に並んだ新しい本をたくさん手にした利用者で、カウンター前には長い行列ができました。

再開館した 1 月 30 日(土)から 2 月 7 日(日)までの 8 日間で、3,627 人が来館され、1,929 人の方が 9,836 点の資料を借りていただきました。



〔横溝正史コーナー〕

横溝正史氏のご遺族の方々や真備の横溝正史疎開宅からの寄贈で、横溝正史コーナーにはたくさんの方が並んでいます。寄附金も個人の方、団体の方など多くの皆様のご協力いただきました。本当にありがとうございました。

倉敷市立図書館の HP に真備図書館のアーカイブを掲載しております。そちらもご覧ください。

(倉敷市立真備図書館 藤井広美)

倉敷市立中央図書館
— 図書館のお宝紹介 (第8回) —

高梁川洪水絵図 (玄石文庫目録 J - 708)
1枚 (縦 88.5×横 189.0 cm) 裏打有

高梁川洪水絵図は、当館所蔵の玄石 (げんせき) 文庫にあります。玄石文庫とは、郷土史家として著名な永山卯三郎 (号が玄石、明治8年 - 昭和38年) 翁の旧蔵資料になります。

この絵図は、原蔵者や入手経緯が不明で、年代等も記されておらず、単独の資料として伝わっています。また状態は、全体に虫食いが見られ、裏打ちが施されていて、筒状に巻いた状態となっています。

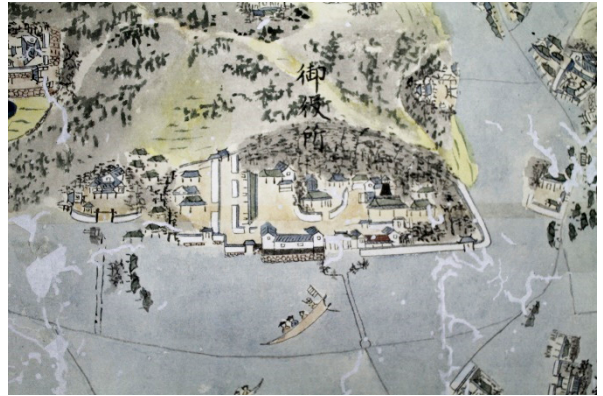


[安江・四十瀬付近の決壊部分と鶴形山周辺]

描かれている内容は、「高梁川嘉永洪水絵図 (嘉永3年)」(『早島の歴史3史料編』の付録絵図) と酷似したものです。安江・四十瀬付近の高梁川が決壊して倉敷市域に浸水し、遠く早島町や岡山市撫川・児島湾岸の興除新田にまで達した状況を俯瞰的に描いた色彩絵図です。

浸水地域の広がり・地名・代官所・寺社・町並・家・山・川・水路・道路や舟に乗って避難する人々などが緻密に描かれています。ただ前述の絵図と比べると、紙の寸法が少し小さく、そして洪水の水深や被害状況などの記述情報が少ないことが指摘できます。

これらにより、この絵図は嘉永3年 (1850) の洪水を描いたものになることがわかります。この洪水については、『新修倉敷市史4近世(上)』などで詳述されています。これらの絵図と併せて、嘉永3年の洪水の全貌を視覚的に知ることができます。過去の洪水を伝承する歴史的な資料の一つになります。



[倉敷アイビースクエア周辺の倉敷代官所]

玄石文庫目録 (平成19年3月) の分類

- | |
|---|
| <p>A) 図書類、B) 書簡・名刺、C) 原稿類</p> <p>1. 倉敷市史関係 2. 岡山県史関係 3. 岡山市史関係 4. 岡山県農地史関係 5. 吉備郡史関係 6. 帯江村史関係 7. 高島関係</p> <p>8. 岡山県金石史関係、D) 手帳・ノート、E) 考古、F) 寺社、G) 城址、H) 人物誌、I) 碑文・拓本、J) 地図・地名考、Z) 雑、追加</p> |
|---|

玄石文庫目録の分類は、上記のようになっています。高梁川洪水絵図は、J-708 に所収されています。現状では、館内において冊子になった目録で探して資料請求することにより閲覧ができます。また複写はデジカメ等に限りません。なお、他の特別文庫類についても館内閲覧のみで、複写はデジカメ等に限られています。

(倉敷市立中央図書館 渡邊隆男)

新見市立中央図書館の取り組み

新見市立中央図書館は、まなび広場にいみ生涯学習センター部分を改修し、平成29年4月にリニューアルオープンしました。旧新見図書館と比べ、駐車場の大幅な拡大やエレベーターの設置、無料Wi-Fiの提供等、設備面でとても使いやすくなりました。建物内も壁一面がガラス窓で書架が低いため、明るく開放的で居心地のいい空間となりました。併設のカフェでは、コーヒーやスイーツ、ランチなどを低価格で提供しており、女子高生や若い人に人気の場所となっています。

蔵書冊数は約11万冊に増え、利用者数も1.5倍程度増加しました。県北でありながら市外からの来館者も増加し、令和2年2月6日に来館者数50万人を達成しました。

リニューアルオープン後から行っている、中央図書館での新しい取り組みをご紹介します。

■イベントの企画・実施

一般向けのイベントとして、平成30年度よりNHK岡山放送局のアナウンサーによる「まなびの森の朗読会」を毎年開催しています。今年度もアナウンサーの巧みな朗読と、方言や仕事に関する楽しい話を聴くことができました。また、東洋大学講師派遣事業を利用した「まなびの森おとなの学校」や、コロナ禍で発表の機会を失っていた新見高等学校吹奏部に、演奏の場を提供した「おとの広場」などを開催しました。



[絵本とおやつの時間の様子]

子ども向けのイベントでは、広い館内を利用した「としょかん☆クイズラリー」、絵本に出てくるお菓子を作り、絵本の読み聞かせを行う「絵本とおやつの日」、絵本作家による原画展とワークショップなどを開催しました。

■展示コーナーの充実

利用者に本を手にとってもらえるよう、館内の展示に様々な工夫をしています。「特集展示コーナー」で



[令和3年1月の展示]

は、毎月テーマを決めて季節の本や話題になった本を紹介しています。農業が盛んな地域性を考慮して開館時より「農業支援コーナー」を設け、農業や加工販売に役立つ資料を収集・提供しています。また児童コーナー付近への「子育て支援コーナー」の設置や、問い合わせが多いドラマや映画化された図書を「映像化コーナー」に集めて展示するなど利用者の利便性を考えた配架を心がけています。

■移動図書館車による巡回貸出の実施

これまで小中学校・認定こども園・保育所等で実施していた移動図書館車による巡回貸出について、令和元年9月より一般にも対象を広げて巡回を開始しました。巡回場所は公民館等13カ所に設置し、市内の図書館・図書コーナーから離れた地域の方にも図書を利用できる環境を提供しています。

これからも、今まで図書館を利用したことがない人にも足を運んでもらえるような企画を考えると同時に、図書館本来の役割も充実させていきたいと考えています。そして、中央図書館が市民のみなさんの「学び憩える場所」になるよう、図書館職員一同笑顔で日々の業務に取り組みたいと思います。

(新見市立中央図書館 西村康子)

吉備国際大学附属図書館 －利用促進企画のご紹介－

吉備国際大学附属図書館は、高梁キャンパスに3館の図書館・ラーニングcommonsを擁し、岡山キャンパス図書館、南あわじ志知キャンパス図書館と合わせて5館の図書館・ラーニングcommonsから成り立っています。

近年、インターネット・SNSなどの情報検索ツールが多様化する中、大学生の読書離れ、図書館離れを少しでも緩和し、図書館・ラーニングcommonsを有意義に利用してもらいたいという思いから、利用促進企画の起案・実施を進めて参りました。

今回は、これまでに実施した企画の中から、いくつかをご紹介します。

【読書パレード】

「読書パレード」は、学生の学生による学生のためのおすすめ図書紹介と銘打って、2年前から実施しております。「おすすめしてくれた図書が他の誰かの心に届き、読書がパレードのようにつながってくれば嬉しい。」という図書館職員一同の思いも込めて命名された企画です。一昨年度は104冊、昨年度は100冊の本を学生が紹介してくれました。今年度は、新型コロナウイルスの影響で春学期授業がオンラインで実施され、企画の開催も危ぶまれましたが、無事に10月より「読書パレード」を実施できるようになりました。今年度は、開始から2カ月で、すでに40冊の図書の紹介があり、ステイホームで読書する学生が増えたのかもしれませんが、企画自体が学生に浸透してきていると実感しています。学生自身が紹介することによって、同年代の心に響く文芸書や、学習・実習に活かせる専門書を見つけることができるようで、多くの学生が、読書パレードの掲示に足を止めて見入る姿が見受けられます。



【読書パレードの掲示】

【図書館絵馬】

毎年1月に実施している企画です。新年の抱負を書いてもらうだけでなく、この時期学生は期末試験や国家試験を控えているため、自分自身を鼓舞したり、友達を応援したりするという試験応援企画としての一面もあります。みなさん、思い思いに願い事を絵馬に書き込んで台紙に貼っていきます。他の人がどんな願い事を書いているのかを見て楽しむ様子が目立ちました。



【絵馬を貼り付ける学生】

吉備国際大学附属図書館では、この他にも、ハロウィン企画や図書館クイズ等、学生参加型の企画を実施し、学生自身が楽しむことによって、図書館や読書に親しみを持ってもらい、利用促進につなげていければと考え、今後もこのような企画を実施していきたいと思っております。

(吉備国際大学附属図書館 島村菜穂美)

SDGs ～すべての人に人権を～ IPU 人権啓発展示

SDGsは、前文で「誰一人として取り残さない (No one will be left behind)」と宣言されているように、だれもが平等に幸せに生きる権利「人権」が尊重される社会を実現するものです。2020年新型コロナウイルス感染症が流行する中、邑久光明園様のご協力により、人権啓発展示「SDGs すべての人に人権を」を開きました。

本館では、秋の人権週間の時期に人権啓発展示を行っています。テーマは「いじめ」「虐待」「ジェンダー」など本学の教育課程である教育・保育・体育に沿って、学生が学習や身近に感じられる問題を主題として展開しています。2013年頃から始め、翌年の2014年に邑久光明園様のご協力により、第1回の「ハンセン病」のパネル展示を行いました。その年、岡山では「ESDに関するユネスコ世界会議」が開催され、それに合わせてESDの展示も秋に行いましたが、その際のテーマは「教育」、「環境」、「途上国支援」などが主題であり「人権」に踏み込んだものではありませんでした。その後2019年、2020年と邑久光明園様と再び共同でパネル展示をする機会を得ました。



〔SDGs (第1弾) の展示〕

2020年新型コロナウイルス感染症の影響で、本学は前期から全面オンライン授業、後期から



〔邑久光明園のパネル展示を見学する学生〕

一部対面授業が始まりました。10月頃、教育経営学科からSDGsを課題とする関連書籍を集めて欲しいという要望を受け、SDGsの展示コーナーを設けました。そこへ、邑久光明園様から2年連続でパネル提供のご提案をいただき、SDGs第2弾として「基本的人権」にテーマを絞って展示を行うこととなりました。11月は新型コロナウイルス感染症が長期化し、感染者や医療従事者への差別や偏見などが社会問題となりました。これは、かつて「らい病」という当時未知の病気に対して、感染者が家族や社会から排斥、隔離され人権が侵害された歴史と重なるように思われました。人は、いつの時代も未知の病気と感染への恐怖を感じ、差別や偏見をもつことを繰り返してしまうという現実をコロナ禍において直面し、ハンセン病の歴史を知ること、先が見えない時だからこそ、正しく恐れ、現在・未来に希望を見出すヒントを得て、偏見のない世界について考える機会となる展示を目指しました。

2020年は、人権問題に関わっている現代経営学科の教員と、学生の協力も得て「人権教育研究推進委員会」と共催で開くこととなり、多くの学生が訪れてくれました。展示を通じて少しでも「人権」について考えるきっかけとなってくれることを期待しています。今後も、「人権啓発展示」を継続して取り組んでいきたいと思えます。

(環太平洋大学附属図書館 栗林綾子)

ピクトグラムを活用したサイン作り ～笠岡市立図書館の館内表示～

岡山県立大学との連携事業で、図書館独自のピクトグラムを作成していただきました。平成 30 年度に、大学との連携（協働）見込のある事業の調査に参加したのがきっかけです。

当時の図書館のサインや案内は、必要に応じて職員が作成していたため、統一感がなく雑然とした雰囲気になっていました。担当教授と学生による、当館や他の図書館での調査、図書館職員とのヒアリングなどから課題を見つけ、それをもとに試作品を作成し、完成品を設置するという過程で事業が進みました。

図書館からは、大分類の見出しと、小分類（医学のみ）の差込スリット用のピクトグラムの作成をお願いしました。以前は、分類番号と文字のみの表示だったので、差込スリット設置後は、本を探しやすい書架になりました。

ピクトグラムの作成から 1 年が経過し、利用者からは書架が見やすくなったとの声をいただいています。今後も、掲示物を作成する時は「統一感」と「見やすさ」を心がけ、利用しやすい図書館を目指していきたいと思います。



[大分類見出し]



[医学差込スリット]

(笠岡市立図書館 徳山佳代子)

・・・こんなサインができました！・・・

とびだす書架サイン ～久米南町図書館～

とびだす書架サインを思いついたのは、2020 年の新型コロナウイルス感染症の流行により、入館者が減少し館内の環境整備に時間がとれるようになった時です。整然と並んだ資料も美しいですが、平凡な書架を歩き回るだけでどこかワクワクする楽しいものにしてようと考えました。まず、0 類から一日一看板製作することを目標にし、基本の材料は、身近なダンボールや本のケースなどを再利用し、手作り感満載で経費をかけないで行こうと決めました。平面の多い書架サインを立体的にするには、紙を交差させたり、厚みを持たせたり、吊るしたり、布を貼ったり、穴を開けたりと工夫を凝らしました。また、川柳の町 久米南町の PR も兼ねて、書架サイン



[素材はダンボール]

ンにちなんだ川柳を添えました。実際、レファレンスを受けた時、目的の場所に案内するのに書架サインが飛び出しているのが、スムーズに誘導できて役立っています。これからも、この図書館の特徴としてビックリするような書架サインを増やしていきたいと考えています。

(久米南町図書館 國忠敬子)



令和2年度岡山県図書館協会 研修参加助成事業報告書

研修名：第106回全国図書館大会
和歌山大会（オンライン大会）
期 日：11月20日（金）～30日（月）

記念講演「『理想』の図書館をもとめて

紀州徳川当主たちの夢、明らかに」
美山 良夫氏（慶応義塾大学名誉教授）

紀州徳川家第15代当主である徳川頼倫が設立した私設図書館「南葵文庫」及び、第16代当主徳川頼貞が建設した「南葵楽堂」と音楽文庫について、当時の写真や記念冊子等をもとに紹介されました。南葵文庫の敷地には庭園があり、遊歩道を散策できました。また、2階に設けられたギャラリーで、毎年、武具や甲冑、玩具、楽器等を陳列していました。他にも専門の学者を招聘した講演会や、児童のための講話会等を開催していたといいます。更に、頼倫によって音楽部門が誕生し、日本初の音楽専用ホール「南葵楽堂」が造られました。

以上のように、南葵文庫は、現在の文化センターのように様々な役割を果たしていました。これは、図書の閲覧を軸としたライフスタイルの提案であり、現代の図書館にもつながる活動です。同時に、時勢の変化の中、コレクションを後世に伝えること、図書館事業継続の悩みも、これからの図書館に通じるものでした。

第11分科会 認知症バリアフリー図書館特別 検討チーム

テーマ：誰もが安心して使える図書館に — 認知症と向き合う図書館の実践 —

基調講演において、大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻准教授・山川みやえ氏より、認知症の方の生活の質を保つには、初期段階にお

ける関わりが重要であり、図書館に一人で来館するのもこの時期の方が多いと説明がありました。土日祝日・夜間も活動でき、誰でも無目的で立ち寄れる、地域社会に溶け込むチャンネルがあるという図書館の利点を活かし、図書館から他部署、医療機関、住民へと関わりを広げ「多世代・地域交流の図書館プロジェクト」へ発展した活動の紹介が行われました。

また、大阪府阪南市立図書館館長・加藤靖子氏による市民協働の認知症カフェ「マスターズCafé」の紹介、堺市立西図書館館長・中川百里香氏による医療専門職と連携したブックリスト・看護フェスでの展示・医療機関への貸出パック等の実践、有田川町役場福祉保健部長寿支援課地域包括支援センター主任・辻合竜也氏による「認知症と共に生きるまちづくりイベント」という多世代交流イベントの報告がありました。

瀬戸内市民図書館には、認知症にやさしい図書館プロジェクトの一環として「認知症にやさしい本棚」を設置しています。認知症患者やその家族の方々が暮らしやすい地域をつくるため、更なる取り組みを考える上で、今回の研修は大変参考になりました。認知症カフェをきっかけに手話カフェや哲学カフェへと広がったり、認知症を研究した子どもたちの発表が行われたり、高校生が認知症にまつわるかるたや会話が弾む日めくりカレンダーを作成したり、そうした異世代交流が図書館で生まれています。「認知症にやさしい図書館」が、多世代交流の活動に発展していくことで、「すべての人にやさしい図書館」へつながり、暮らしやすい地域づくりの一助となっていくと感じました。新しい生活様式の中、いずれの施設も活動の継続に悩みながら運営されているようです。地域の住民の方々が安心して交流できる場を保ち続けることができるよう、私も模索していきたいと思います。

（瀬戸内市立図書館 金嶋彩子）

県図協セミナー（第 1 回）に参加して

「水濡れ資料の救済について」

期日：令和 2 年 11 月 20 日（金）参加者：32 名

講師：眞野 節雄氏

（公益社団法人日本図書館協会資料保存委員会 委員長）

この研修では水濡れ資料の救済について、本の防災対策の第一人者である眞野氏に動画や実演を交えてご教授いただきました。

まずは災害について、被害を最小限にするために何よりも大事なことは「事前対策」であると教わりました。自分が所属する図書館の設備点検を定期的に行っているか、資料群ごとに救済する優先順位付けができているかなど、災害へ備えるための具体的な手順を知ることができました。

また、実際に水濡れ資料を乾燥させていく手順を、実演を交えて教えていただきました。濡れた状態から素早くページ間を開き、風を当てて乾燥させる方法が基本になるそうです。濡れが激しい場合は、新聞紙やコピー用紙など給水紙をページ間に挟み、ざっと水分を取ってから乾かします。冷凍庫を使って乾燥させる方法もありますが、冷凍庫から取り出した後はしっかりと板で挟んでおもしろを乗せておかないと歪みが出てしまう場合があると伺い、今まで自分が行っていた処置を改めることができました。

今回、実際に被災された図書館の映像や各館の防災への取り組みを見て、自館での課題が見

えてきました。この研修で学んだ内容を活かし、突然の災害にも対応できるようしっかりと予防を行っていかうと思います。



〔県図協セミナーの様子〕

（総社市図書館 重松淳美）

事務局からのお知らせ

■創立 70 周年記念事業について

次のとおりイベントを計画しています。

★記念トークショー★

作家小川洋子さんをお招きし、図書館との思い出などをお話しいたします。

開催日：令和 3 年 10 月 24 日（日）

会 場：岡山県立図書館

★POP コンテスト★

小川洋子さんの作品を題材にした POP コンテストを行います。

募集期間：令和 3 年 6 月～8 月頃を予定。

★バリアフリー映画上映会★

「博士の愛した数式」を上映します。どなたでもご参加いただけます。

【開催日／会場】

令和 3 年 8 月 29 日（日） 岡山県立図書館

令和 3 年 9 月 5 日（日） 真庭市立中央図書館

★子ども向けイベント「ものがたりであそぼう！」（仮）★

児童文学作家昼田弥子さん（岡山県在住）をお招きして、小学生（低学年）を対象とした読み聞かせやワークショップを行います。

開催日：令和 3 年 8 月 8 日（日）

会 場：岡山県立図書館

※詳細は別途ご案内します。

※令和 2 年 6 月に総会で承認を受けた創立 70 周年記念事業の「賞を贈り、お祝いする会」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止いたします。その他、上記イベントについても、感染状況により、内容を変更することもございますので、あらかじめご了承くださいますようお願い申し上げます。

令和 3 年 3 月 1 日発行

〒700-0823 岡山市北区丸の内 2-6-30

岡山県立図書館 図書館振興課内

岡山県図書館協会 会長 中本 正行

TEL：086-224-1286